

氏名	三国 和子(ミクニ カズコ)
所属	市立名寄短期大学児童学科
職名	教授
研究室連絡先	電話 01654-2-4199 ダイヤル3301 FAX 01654-3 3354(事務局) E-mail kmikuni@nayoro.ac.jp
ホームページ URL	

学歴	北海道教育大学教育学部釧路分校中学校教員養成課程音楽科卒業 愛知教育大学大学院教育学研究科修士課程芸術教育専攻音楽科教育専修修了
職歴	1984年4月～1986年3月 北海道三笠高美高等学校教諭 1986年4月～1992年3月 北海道釧路市立武佐中学校教諭 1992年4月～1993年3月 北海道阿寒郡阿寒町立阿寒中学校教諭 1994年4月～1998年9月 市立名寄短期大学講師 1998年10月～2006年3月 同上 助教授 2006年4月～現在 同上 教授
学位	教育学修士(愛知教育大学大学院)
免許・資格	小学校教諭一級普通免許状 中学校教諭一級普通免許状(音楽) 高等学校教諭二級普通免許状(音楽)
研究分野	音楽科教育学、保育音楽
現在の研究課題	幼児の音楽的活動の様態、保育における音楽指導
主な担当科目	音楽、表現

研究・教育業績	<p>(1) 音楽科の授業構成</p> <p>『視点を変えた音楽の授業づくり』(共著)音楽之友社 1988年</p> <p>『たのしい音楽の授業づくり 音楽指導クリニック100のコツ』(共著)学事出版 1990年</p> <p>『音楽指導クリニック2 音楽の授業たのしさ発見!100のネタ』(共著)学事出版 1991年</p> <p>『音楽指導クリニック3 子どもとたのしむ音楽プリント 音楽のしくみ編』(共著)学事出版 1992年</p> <p>『音楽指導クリニック4 子どもとたのしむ音楽プリント たのしい実技編』(共著)学事出版 1992年</p> <p>『音楽指導クリニック5 アイデアでつくるたのしい音楽鑑賞の授業 小学校中学校鑑賞教材の指導・全事例』(共著)学事出版 1993年</p> <p>『音楽指導クリニック6 音楽授業を20倍楽しくするお話のネタ』(共著)学事出版 1994年</p> <p>『音楽指導クリニック7 やさしいリコーダー指導のコツと練習曲』学事出版 1994年</p> <p>『音楽指導クリニック8 だれでもできる声づくり合唱づくり』(共著)学事出版 1995年</p> <p>『新・音楽科宣言 音楽科は今までは滅びる!』(共著)学事出版 1996年</p> <p>『子どもとたのしむ音楽ワークシート 音楽のしくみ・総合学習編』(共著)学事出版 2003年</p> <p>「音楽科の授業における指導過程構成に関する一視点(その1)『拍子』の指導を中心として」(共著)日本教科教育学会誌第8巻 第3・4号 1983年</p> <p>「音楽科の授業における指導過程構成に関する一視点(その2)授業プラン『拍子のおはなし』を中心として」(共著)日本教科教育学会誌第8巻 第3・4号 1983年</p> <p>「授業書方式による調性指導に関する研究」愛知教育大学大学院教育学研究科修士論文 1984年</p>
---------	---

	<p>「授業プラン『要注意歌謡曲』とその解説 分科・総合学習への一視点」(共著)埼玉大学研究紀要・教育学部 第35巻 1986年</p> <p>「音楽科における教材づくりに関する一考察 授業試案『シャープ君の音楽探険』の解説を中心に」(共著)埼玉大学教育実践研究指導センター紀要 第1号 1987年</p> <p>「音楽の授業の記述をめぐって」(共著)埼玉大学教育実践研究指導センター紀要 第2号 1988年</p> <p>「クラス合唱づくりのコツ」学事出版『授業づくりネットワーク』 1992年</p> <p>「音楽科カリキュラムに関する一試論」(共著)埼玉大学教育実践研究指導センター紀要 第5号 1992年</p> <p>「音楽科における授業目標設定レベルと授業の基本問題」(共著)埼玉大学教育実践研究指導センター紀要 第6号 1993年</p> <p>「異文化圏の音楽学習と世界認識」学事出版『授業づくりネットワーク』 1993年</p> <p>「創造的音楽学習の授業論的課題」市立名寄短期大学紀要 第27巻 1995年</p> <p>「異文化理解と音楽学習」道北地域研究所年報『地域と住民』第13号 1995年</p> <p>「教科再編と音楽科の方向性をめぐって」日本音楽教育学会誌『音楽教育学』第26-2号 1996年</p> <p>(2) 保育音楽指導</p> <p>「保育の場における音楽的活動の意味と機能」市立名寄短期大学紀要第35巻 2003年</p> <p>「保育過程における音楽活動(1) - 保育者・子ども双方にとっての音楽活動の意味 - 」(共同)日本保育学会 2001年</p> <p>「保育過程における音楽活動(2) - 保育カリキュラムに見られる音楽的活動の位置づけ - 」(共同)日本保育学会 2001年</p> <p>「保育過程における音楽活動(3) 『豊かな感性』の育成における心的関係性 - 」(共同)日本保育学会 2002年</p> <p>「保育過程における音楽活動(4) - 子どもと音楽の心的関係性の分析を通して - 」(共同)日本保育学会 2002年</p> <p>「保育過程における音楽活動(5) - 音楽の機能からのアプローチ その1 - 」(共同)日本保育学会 2006年</p> <p>「保育過程における音楽活動(6) - 音楽の機能からのアプローチその2 - 」(共同)日本保育学会 2006年</p>
<p>学会活動</p>	<p>日本音楽教育学会会員(1982年~現在)</p> <p>日本保育学会会員(1996年~現在)</p> <p>北海道教育学会会員(1997年~現在)</p> <p>保育問題研究協議会会員(1995年~現在)</p>
<p>社会活動</p>	<p>鈴石女声コーラス指導者(1996年~現在)</p> <p>メイクドラマ天塩川検討懇話会委員(1997年~1998年)</p> <p>名寄市北国博物館協議会委員(2000年~現在)</p>
<p>コメント</p>	<p>「音楽」と「表現」に関する科目を担当しています。幼児期の子どもにとって、音楽は重要なコミュニケーションの手段です。しかし残念ながら、保育の中での音楽は、「情操教育」という名の下に、実際にはねらいや位置づけが曖昧なまま、ただ流されているという場合も多いのです。目下の研究課題は、このような問題意識から取り上げています。</p> <p>ところで、私には2歳の娘がいます。毎日、「こんな事がもうわかるのだ」「こんなにできるようになったのだ」と驚き、そして楽しませてもらっています。その一方で、しょっちゅう熱を出したり、その時流行っている病気に罹ったり、なかなか大変な事もあります。つい最近も肺炎になって入院し、夫と交替で仕事を休んで付き添っていました。児童学科で学び、子どもと関わる専門職に就くことを目指す皆さんには、このような私を間近で見て、子育てをしながら働く親たちの喜びや大変さを理解してもらえれば、と思っています。</p>

